

# 個が生きる生活科授業の評価と援助

—— 日常生活との一体化を図った生活科授業づくりを通して ——

吉 浦 公 子

## 1. 生活科授業の役割とは

生活科の目標には、(1)具体的な活動や体験、(2)自分と身近な社会や自然、(3)自分自身や自分の生活、(4)生活上必要な習慣や技能という生活の特色と、「自立への基礎を養う」という究極的なねらいが示されている。この「自立への基礎を養う」ことを、小学校の子どもたちの具体的な姿で描いてみると、次のように考えられる。

- 学校や学級という集団の一員として、共に生活することができる。
- 自分のことは、自分ですることができる。
- 自分の考えを、自分らしく表現することができる。
- 身近な社会や自然に対して、主体的に働きかけることができる。

つまり、生活科授業は、「集団の一員としてどう生活すればよいか」、「環境に対してどう働きかければよいか」を児童が学習し、「自立への基礎を養う」ことを目指す教科であるととらえることができる。

これらは、言うまでもなく、週3時間の生活科授業時間だけで、培うことのできるものではない。また、生活科授業が終了した後、実際の学校生活・家庭生活の場において、意欲をもって生活し、学習した力が発揮されることがなければ、目標を達成したとはいえない。つまり、児童の日常生活と一体的に考えて、構成していく必要がある。

では、児童の日常生活と生活科授業との一体化を図るとはどのようなことなのか、また、その評価と援助・指導はどうあれば良いのか、実践を通して具体的に考えていく。

## 2. 児童の日常生活との一体化を図った生活科授業の評価と援助・指導

児童の日常生活を具体的に見ると、家庭での生活（児童個々）、他教科・領域、他学年・他学級との交流、地域との結びつき等が深くかかわりあっている。つまり、これらとの関連を図った単元を構成し、個に応じた評価と援助・指導を継続的に行うことは、生活科の目指す「自立への基礎」を養う上で有効であると考えた。

児童の日常生活と生活科授業との一体化を図り、個に応じた評価と援助・指導を行うならば、「集団に適応して生活する力」「環境に対して主体的に働きかける力」を育成することができるであろう。

具体的方法として、次の3点を考えた。

### (1) 生活科単元相互の関連を図った構成

生活科では、1・2学年の目標が、共通に示されている。目標が学年別に固定されていないことにより、児童の実態に合わせた指導をいっそうおこない易い。それだけに、内容において両学年で類似したものについては、単元相互の関連を図り、次の単元を考慮した目標を設定する。

### (2) 学級経営に根ざした生活科授業の位置づけ

生活科の単元を構成する際に、他教科との関連を図り、合科的な指導を行うことは、必要である。それと同時に、授業以外の日々の学級での生活との関連も重要であると考えられる。学級の友だち

と関わる場や教室環境等も含めた学級経営に根ざした生活科授業を考えていく。

### (3) 一人一人の児童の実態に応じた評価と援助・指導

生活科授業を構成する際、事前に一人一人の生活経験や生活習慣等について十分把握する。この実態を生活科のねらいに照らして、継続的に個に応じた評価と援助・指導を行う。

## 3. 生活科授業の構成と評価と援助・指導の実際

ここでは、「季節にかかわる伝統的な行事に関心をもち、主体的に参加することができるようにする」ことをねらった生活科単元の指導と評価を取り上げる。

### (1) 児童の生活経験の実態把握

生活科の単元を構成するにあたって、児童の発達段階とともに、個々の生活経験や生活習慣を調査し、実態を把握する必要がある。本実践では、特に、季節にかかわる伝統的な行事に対する経験・意識について調査を行った。方法は、個別の面接による聞き取り調査である。この結果を生活科のねらいに照らして整理し、児童名簿を利用した一覧表に記入した。

正月に関する児童の実態調査結果（第1学年）

実施：1990, 12

|    | お正月の楽しみは、どんなことですか。          | お正月の前になんかことをしますか。          | 備考（これまでの経験の場、その他）    |
|----|-----------------------------|----------------------------|----------------------|
| A児 | こま、すごろく、ふくわらい、たこあげ、百人一首、お年玉 | 大掃除をする、蕎麦を食べる、餅つきをする、鏡餅を飾る | 祖父母と同居家庭で、多くの経験している  |
| B児 | お年玉、ファミコン、祖父母の所へ行く          | わからない                      | 伝承的な遊びをほとんど経験していない   |
| C児 | 家族旅行                        | 年賀状を書く                     | たこあげ、すごろくを幼稚園で体験している |

これは、授業における評価と指導において活用するためである。右に示したのは、3名の児童の単元開始前の行事に対する経験と意識の調査の結果である。

### (2) 生活科単元相互の関連を図り、学級経営に根ざした生活科単元の構成

ねらいをふまえて、指導にあたっては、次の点を基本とした。

- ① 関連した単元相互の目標・内容・方法を検討し、段階をふまえた発展的指導を行う。
- ② 生活科の単元と他教科・領域、及び学級経営との関連を重視した指導計画を立てる。

これらの点に基づいた単元構成、及び他教科・領域、学級経営とのかかわりは、次ページに示すとおりである。第1学年では、季節の伝統的な行事に触れることをねらいとして他教科・領域との関連を図り、学級経営をすすめた。また、1月の生活科小単元「ふゆのくらし」で、友だちの家のお正月の様子を知ったり、全員が伝統的なお正月の遊びを体験する場を設定し、その楽しさを味わわせようとした。第2学年では、行事について自分なりに考えをもち、主体的に参加できることをねらって、他の学習との関連を図った。生活科単元「わたしのお正月」では、自分なりにお正月を迎えるためにできることを工夫し、各家庭で実践し、報告するという単元構成を行った。さらに、「楽しい節分」では、行事について調べたことを、1年生に伝えたり、会を自分たちで企画・運営することにより、より積極的に行事を受け継ぎ、育てていこうとする意欲を育てることをねらった。

### (3) 個の実態に応じた評価と援助・指導

(1)で把握した児童一人一人の生活経験等をふまえて、個に応じた評価と援助・指導を行った。

#### ① 見取りの視点を明確にした援助と指導

生活科は児童の具体的な活動を重視している。それだけに、教師が活動のねらいを明確にしておかなければ、価値のある活動や体験とはならない。そこで、事前に活動を見取る視点を明確にし、必要な援助・指導を行うことが大切であると考えた。次に示すのは、第2学年単元「わたしのお正月」中の小単元「お正月の準備をしよう」のC児の活動である。単元の目標とのかかわりから“進んでお正月のしたくに取り組もうとしている（生活への関心・意欲・態度）”、“自分なりに工夫することができる（思考・表現）”“自分や友達が工夫できたことに気付いている（環境や自分についての気付き）”という評価基準を設定した。

季節の伝統的な行事にかかわる単元・関連内容

| 学年   | 季節の伝統的な行事にかかわる単元   | 他教科・他領域   | 学級経営  | 季節的な行事に関連した学校行事・他学級との交流  |
|------|--|---|---|--|
| 第1学年 | <p>小単元<br/>「お正月の話しよう」「お正月のあそびをしよう」<br/>(単元「ふゆのくらし」第三・四次)</p> | <p>「こいのぼりをつくろう」<br/>(図画工作)</p> <p>しのめまつりのいしょうをつくろう<br/>(学級活動)<br/>(図画工作)</p> <p>おめんをつくらう<br/>(図画工作)</p> | <p>こいのぼりをかざろう<br/>(教室経営)</p> <p>七夕のおねがいをかこう→</p> <p>お月見会しよう</p> <p>年間継続</p> <p>行事食の説明・民話の読み聞かせ</p> <p>豆まきしよう</p> <p>おひなさまを見に行こう</p> | <p>七夕会<br/>(1年・養護学級合同)</p> <p>全校<br/>東雲まつり (児童会活動)</p> <p>校内豆まき (養護学級)</p> <p>ひなまつり (養護学級)</p> |

(略)

|      |  |   |   |  |
|------|--|---|---|--|
| 第2学年 | <p>単元<br/>「おまつりをしよう」</p> <p>単元<br/>「わたしのお正月」</p> <p>単元<br/>「楽しいせつぶん」</p> | <p>東雲まつりにさんかしよう<br/>(学級活動)</p> <p>かさこじぞう<br/>(国語)</p> | <p>年間継続</p> <p>・給食時間における行事食の説明<br/>・季節の民話の読み聞かせ</p> | <p>全校<br/>東雲まつり (児童会活動)</p> <p>校内豆まき (養護学級)</p> <p>せつ分会 (1・2年合同)</p> <p>ひなまつり (養護学級)</p> |
|------|--|---|---|--|

評価における見取りの視点は次のとおりである。

- a 意欲をもって取り組んでいるか（準備物、会話、つぶやき、具体的な活動の様子）
- b 自分なりに考え、工夫しているか（材料や道具の活用、思いや願い、試行や改善の様子）
- c 友達や自分のよさに対する気付き（協力、会話、つぶやき、具体的な活動等）

小単元名 「お正月の準備をしよう」

本時の目標 お正月を迎えるための準備を実際に自分で試したり、工夫することができるようにする。

| C 児 の 活 動  | 教師の援助・指導   | 評 価   |
|--|--|---|
| <p>(前略)</p> <p>お餅の食べ方を工夫する児童と一緒に皿などを用意する。</p> <p>*他の児童は、家から持ってきた色々な材料を使って餅の食べ方を試し始めた。</p> <p>家から多くの物を持って来て机の上に出しているが、友達の活動を見ているだけで何もしない。</p> <p>「まだ、わからない。これはお母さんが用意したんだもん」</p> <p>*D児「あんを中に入れてそのいちごを飾ったら、いちご大福みたいになるよ」</p> <p>E児「持ってきた缶詰のパイナップルとジャムも合うんじゃない。」</p> <p>C児は、皿に餅を取り、D児の言った通りにやってみる。全く同じことを何皿も繰り返す。他の材料は、全く使わない。</p> <p>*他の児童は、すでに試食をしあったりしながら、工夫を続け</p> | <p>「C君、たくさん集めてきたのね。お餅をどうやって食べてみたいの」</p> <p>「みんな、C君の持ってきたもので、どんなことができると思う」</p> <p>「どれもおいしそうね。C君もやってみよう」<br/>(活動の様子を見守る)</p> | <p>&lt;意欲をもって取り組んでいるか&gt;</p> <p>・C児は、様々な材料を3日前から準備してきている。<br/>(ジャム・クリームチーズ・はちみつ・いちご・果物缶詰・小豆あんなど)</p> <p>・材料はあるが、活動に入れない。友達の活動をじっと見ている。興味は示している。</p> <p>・C児が、自分自身の考えをもっていない段階で保護者が準備したようである。持ってきたものをC児なりに活用させたい・持ってきた材料の活用の仕方について、友達の発想を参考にさせる。</p> <p>・D児・E児の考えを黙って聞いている。自分の材料をながめたり、さわったりしている。自分でもできそうだと感じはじめたようである。</p> <p>・活動を始めた。D児の考えた通りに作っている。ゆっくり丁寧に作業をしている。黙って真剣な顔つきである。</p> |

ている。

隣のD児に見せる。  
「C君、じゃうずだよ」と他の児童に紹介する。E児と餅を交換し、試食し合う。笑顔になり会話もはずむ。  
自分のつくった餅の周りに、他の缶詰の果物などを並べて飾り始めた。

(以下略)

「C君、おいしそうにできたね。みんなにも見てもらったら」

<友達や自分のよさに気付いているか>

・友達に自分の作ったものを見せる場をつくる必要がある  
・C児に言われてうれしそうな表情になる。  
・D児の作ったものと交換し相手のものをみて「きれい」とつぶやく。友達のものよさにも、気が始めた。  
<自分なりに考え、工夫しているか>  
・友達のを参考にして、工夫し始めた。

## ② 個に応じた継続的な評価と援助・指導

生活科授業時間のみでなく、児童の生活の中の児童の行動やその評価と手だてに

評価の記録

について、記録にして残すようにする。これは、翌日への資料となるだけでなく、長期的に児童の変容を把握することができ、その児童のよさや成長をとらえる資料となる。これは(1)で示した児童の資料の一部である。このような児童名簿を利用した一覧表は、短時間で記録ができ、継続しやすい。

| 活動名 | 「楽しいお正月のしたくをしよう」                         |                          |                       |
|-----|--|--------------------------|-----------------------|
| 目標  | お正月を迎えるための準備を実際に自分で試したり、工夫することができるようにする。 |                          |                       |
|     | 進んで取り組もうとしている                            | 自分なりに工夫することができる          | 自分や友達の工夫に気付いている       |
| A児  | 「家に帰って、おばあちゃんに作ってあげる」と言った。               |                          | 友だちが工夫できたことをみんなに紹介した。 |
| B児  | 考えたことを事前に家で絵に表現してきていた。                   | 自分の持ってきた材料を工夫して利用した。     | 「おいしくできました」と見せにきた。    |
| C児  | 材料は保護者が準備していた。友達と一緒に楽しく取り組んだ。            | 友達の考えを参考にしながら、自分なりに工夫した。 | 「D君がじゃうずだとほめてくれたよ」    |

## 4. 実践結果と考察

季節にかかわる伝統的な行事に対する児童の意識の変容を通して、本実践を考察してみる。生活科の単元として、第1学年・第2学年ともにお正月にかかわるものを設定している。そこで、この単元終了後に、

2月の行事である「節分」に対する児童の意識を2年間にわたって、調査した。

調査は、同一児童について、第1学年・第2学年共通に1月の行事にかかわる生活科の単元終了後におこなった。質問は、「もうすぐ節分です。あなたは、節分の日どんなことがしたいですか。その日までに自分で用意できることがありますか。」とした。結果は、次ページに示したとおりである。質問する時点では、両学年共に生活科の授業としては、「節分」そのものを扱ってはいないが、どの児童も解答に変化があらわれている。第1学年では、入学までの生活体験により個人の差が大きく、行事に関心の低い児童がみられた。しかし、2年生になって、生活科における行事に関する単元での「学習の仕方」や他教科・特別活動・学級経営の中で、主体的に行事を受け止めようとする意欲が育ってきていると考えられる。

|    | 「節分にどんなことをしたいですか」<br>(個人面接による聞き取り) | 備考 (これまでの経験の場, その他) |
|----|------------------------------------|---------------------|
| A児 | 豆まき, 魚(鯛?)を食べる, 鬼の面作り              | 家庭, 幼稚園             |
| B児 | おかしませ                              | 主として幼稚園             |
| C児 | 豆まき, お面作り                          | 家庭, 幼稚園             |

|    | 「節分にどんなことをしたいですか」                     | 考 察                  |
|----|---------------------------------------|----------------------|
| A児 | 節分の意味や, 豆をまくわけを調べる                    | 行事内容への関心             |
| B児 | 節分の歌を調べる, 豆を自分で買って来る                  | 行事への主体的参加            |
| C児 | 鬼について, 色々調べる, 節分のお話を調べる<br>鬼と福のお面をつくる | 行事内容への関心<br>行事への参加意欲 |

この調査後, 第2学年では, 生活科単元「楽しいせつぶん」を展開した。この単元では, 児童が節分について調べたことを学級内で発表したのち, 1年生に伝える場を設定した。2年生の児童は, 1年生にふさわしい伝え方を工夫し, 練習を重ねて, 本時に臨んでいる。右に示したのは, その授業の一部である。学級では, 節分の由来について, クイズ形式によって1年生に興味をもたせようと工夫する姿もみられた。

児童たちは, この後「節分」によせる昔の人々の気持ちを大切にしながらも, 楽しい節分の会を自分たちで企画・準備し, 1年生を招待することができた。

### 5. 今後の課題

以上, 日常生活と生活科授業との一体化を図り, 評価・指導をおこなってきた。この実践では, 特に, 単元相互の関連と学級経営を重視した。しかし, 「楽しいせつぶん」のように, 異学年集団とのかかわりのなかで, 児童の良さがあらわれることも明らかである。今後は, 学級の枠を越えた授業づくりも進めていく必要があると思われる。また, 1・2年生でおこなった生活科の学習を, 3年生以上の学習においてどの様に生かし, 発展させていくかということについて考えていきたい。

| 児童の活動   | 教師の援助・指導  | 評価  |
|---|---|---|
| 円卓に, グループ(1年生5名と2年生5名で構成)毎に分かれて座る。  |   | 児童ABCについての活動の見取り  |
| A児「僕たちは, 節分や鬼についての丸ばつクイズをします」<br>T児「このクイズは, ただのクイズじゃなくて, やっているうちに節分のこと良く分かるようになります」<br>A児「だから, ばつときは, わけも良く聞いてください」<br>E児「鬼の豆は, 人の歳の数だけ食べる。丸かばつか?」<br>1年生が, 考え始める。帽子の色の約束が分ならず, 2年生が教えている。<br>C児「答えはばつです。人じゃなくて, 自分の歳の数だけ食べます」<br>1年生は大騒ぎとなる。騒ぎが続く。前に出ている児童は, 困った様子。座っているB児が「静かに。静かに」といい始め, 他の2年生も自分のグループの1年生をしずめ始める。 | 「2月3日にみんなで節分会をします。そこで, 2年生のお兄さんやお姉さんが, 節分の意味や歌などをたくさん調べました。今日は, 1年生の皆さんに, 調べたことを伝えてくれるようです。では, 節分の意味を調べた人たちからはじめてください」<br><br>座っている児童の方へ行き, 一緒に発表を聞く。<br><br>1年生が帽子の色の約束を尋ねにくる。「2年生の人に聞いてごらん」2年生に対して「1年生に教えてあげてね」<br><br>騒ぎが続いているが, しばらく様子を見守る。<br><br>「静かになりましたね。1年生の皆さんは, 答えが丸かばつかだけではなくて, わけもきちんと聞きましよう。今の問題が合った1年生のひとは, 拍手をしましょう」 | A・C児: 節分の意味についてを1年生にふさわしい方法で伝えようとしている。(工夫)<br><br>B児: 友だちの発表を支えようとしている。(意欲) |
| 1年生 1名だけ起立 全員に拍手されて喜んでいる。「よしやるぞ」という声から聞こえて来る。   |   |   |

(略)

|   |                      |   |
|---|----------------------|---|
| I児「僕たちは, 古い歌を調べました」<br>B児「これは, 豆の教え歌です。手拍子をしてください。それと, 歌い始めるのは, 手をパチン『ひとつ...』と歌いますから, 注意してください。先に僕たちが歌います」(プリント配布)児童4名歌う。<br>「一つ 拾った豆 平べったい...」<br>I児「じゃあ, 一緒にやりましよう」<br>I児「みんな歌えましたか。この歌は節分会までに覚えておいてください」<br>1年生から「えっ, そんな」という声<br>B児「まっ, できたらでいいけどね」 | 一緒に歌いながら, 児童の活動を見守る。 | B児: 1年生に分かりやすいように説明を工夫している。(工夫)<br>歌をすべて暗唱してきていた。(意欲) |
|---|----------------------|---|

(以下略)

まめまぎのかぞえ歌  
①ひとつひろったまめひらべたい  
②ふたつふんだまめふくらんでたい  
③みつつみたまめよそにしよ  
④よつつよったまめよらんのだ  
⑤いっついったまめいにおいだ  
⑥むつつむいたまめむしくい  
⑦ななつなったまめなつかしい  
⑧やっつやいたまめやろつかしい  
⑨このつこうたまめとうさんかい  
⑩とうでとったまめとうさんかい

児童が調べた豆のかぞえ歌 (児童作品)



節分会の準備  
-お面の作り方を1年生に教える-